

富士市岩松まちづくりセンター 高齢者学級かりがね大学レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和2年11月19日

11月19日（木）富士市岩松まちづくりセンター主催高齢者学級「かりがね大学」教室生の司会進行で始まり、14名の受講生の皆さんとともに、まずは「埋文センターと富士地区と岩松地区の歴史」を学習しました。後半は、実際に出土した本物の遺物に触れながらの勾玉作りに挑戦しました。



埋文センターと富士岩松地区周辺のお話

岩松地区の人々の憩いの場となっている雁堤。昨年の新々富士川橋の橋梁建設に伴う発掘調査で、その土手の構造が一部明らかになりました。石を積み重ねた堤の基礎部分の様子、数度にわたる堤を越えた土砂の跡など、どれもが初めて見る堤の姿でした。

その姿は、驚きとともに、今の私たちの生活が250年前の人々の叡智と営みによって築かれてきたものであることに誇りを持つことができました。



勾玉作り体験

須津地区に多く見られる古墳群からも出土している、あの不思議な形の勾玉（曲玉）。その形状は、動物の牙を模しているとする説や母の胎内にいる初期の胎児の形を現しているのではなど諸説があります。そんな謂れや発掘の様子などの解説を聞いた後、いよいよ勾玉作りに取り組みました。出土した勾玉の多くは、翡翠や瑪瑙、水晶といった硬い石を加工して作られていますが、今回の体験では、やわらかくて加工しやすい滑石（蠟石）を、紙のやすりを使って形を整え、完成させることができました。



最初は戸惑いもありましたが、次第にのめりこみ、勾玉作りに没頭、紙やすりを使って、丁寧に磨き上げて成型着色と、世界に一つのオリジナル勾玉を完成させることができました。1時間程度の短い体験時間でしたが、完成までこぎつけ、自慢げに笑顔で首からさげる受講生も見受けられました。

